日本キリスト教団 東金教会〔４１〕

2017年10月8日 聖霊降臨節第１９主日礼拝

年度目標 《神と共に闘う信仰者》

聖　句 しっかりと立つことができるように、神の武具を身に着けなさい。 エフェソ書６章１３節

【礼拝式次第】

司式	足立
奏楽	中村
受付	足立
案内	田上
名札係	井女
礼拝感謝祈祷 早乙	内
〃 〃 寺	

前奏		中村
讃美歌	６８	一同
使徒信条	５６６	〃
交読文	４０	司・会衆
主の祈り	５６４	一同
聖書	ローマ書１４：１３～２３	司会者
祈祷		足立
新聖歌	３５５	一同
み言葉の伝え	「確信を持って生きる」	中村征一郎
讃美歌	３４４	一同
献金		
礼拝感謝		早乙女
〃 〃		寺内
報告		足立
頌栄	５４１	一同
祝祷(派遣)		中村征一郎
後奏	新聖歌５８	聖歌隊

【集会案内】

聖書研究祈祷会 10月11日午後7:30より
早天祈祷会 月-金7時(除祭日)メーヤー館
聖歌練習 本日礼拝後
定期長老会 本日礼拝後
聖書輪読会 10月15日(日)9:50-10:10
礼拝準備祈祷会 10月15日(日)10:25-10:30

【報告】

☆本日は神学校日です。伝道者を育てる働きを担う神学校の働きを覚え、第二献金をお献げします。宜しくお願い致します。
☆召天者記念礼拝及び墓前礼拝、幼児祝福礼拝のご案内が出来ております。週報棚よりお取り下さい。
☆明10月9日(月・体育の日)の九十九里教会修養会で原田裕子牧師(薬園台教会牧師)が「終末期と信仰」と題して講演されます。自由参加です。時間は11:00-14:30、お弁当は九十九里教会でサンドウィッチをご用意してくださるとのことです。関心のございます方はご出席下さい。
☆１０月の講壇担当は次週１５日が足立兄、２２日が朴貞蓮牧師、２９日が小原先生の予定です。お覚え下さい。
☆１１月３日(金)は恒例のバザーです。献品を受付ております。ご協力下さい。又、１１月は６日が長老会・ＣＳ教師会、１２日が召天者記念礼拝及び墓前礼拝、１９日が幼児祝福礼拝，２６日が謝恩日(第二献金)となっております。
☆受付に千葉支区報「しののめ」があり、朴牧師の就任ご挨拶が掲載されております。お取り下さい。又、掲示板に幾つかのご案内があります。ご覧下さい。
☆星野富弘カレンダー申込受付を開始しました。購入希望の方はお名前、購入冊数を週報棚横にございます購入受付表にお書き下さい。１１月１２日締切です。

【10月8日～10月14日の誕生者】

○津久井　姉　○井上　兄　○椎原　兄
※おめでとうございます。主に繋がる枝々であることを覚え、皆で祈り合わせて参りましょう。

【先週集会状況】

集会名	男	女	計
主日礼拝(10/1)	15	32	47
聖研祈祷会(10/4)	3	2	5
聖書輪読会(10/1)	3	6	9
教会学校(10/1)	13	19	32

早天祈祷会 日	男	女	計
10/2	1	2	3
10/3	1	2	3
10/4	1	2	3
10/5	1	2	3
10/6	1	3	4

主日礼拝献金(１０/１)……２７，０００円
教会学校献金(１０/１)……８，２１０円

【今日のメッセージ】

題 ［確信を持って生きる］
聖 書 ローマ書１４章１３節～２３節
1.愛による抑制

2.神と人に!!

3.確信を持って生きる

【次週(１０月１５日)礼拝案内】

題 ［新しい正しい霊］
聖 書 詩編５１篇１２節～１４節
交読文 １５
讃美歌 ２４番 ３５５番
新聖歌 ２０３番

【次週(10月15日)礼拝当番者】

御言葉の伝え	… 足	立上里
司式者	… 井	
奏楽者	… 中	
受付者	… 王	
案内者	… 三	枝田健
名札当番	… 藤	
礼拝感謝祈祷	… 井 上	
〃 〃	… 土	
ｃｓお話し	… 中	
会堂清掃者	… 武	屋里田
〃 〃	…	
花係	… 猪	野肥
看板書き	… 土	

【聖書から】

「他人の召使いを裁くとは、いったいあなたは何者ですか。召使いが立つのも倒れるのも、その主人によるのです。しかし、召使いは立ちます。主は、その人を立たせることがおできになるからです。」
ローマ書一四章四節

「信仰の弱い人を受入れなさい。その考えを批判してはなりません」(一四章一節)　教会には様々の人がいる。信仰と言う視点から見ても、そこには主の贖いの信仰を深く我がものとしている人もいればそうでない人もいる。当然のことである。ただその場合、己の未熟さをよく知り、謙遜に聖書に聞き、主の道に歩もうと願う者もいれば、頑固に己の主張を曲げず、そのことで他者に論争を挑む者もいたであろう。それは聖書の教えを学ぶためと言うより、己の正しさを主張したいがために他ならない。そしてこういった論争は無益であり、互いの交わりを損ねかねない。故にパウロは言う。「信仰の弱い人を受入れなさい。その考えを批判してはなりません」と。その場合、忠告の相手方は主の贖いの信仰をともかく理解していると思われる者に対してである。なぜなら彼はそこに至るまで求道の紆余曲折を経、其処に至っていない者の辿っている道筋を良く知っていたからである。弱い人、即ち、信仰の理解を未だ知っていない人、そのような人が自分の信仰の強い人が反論しようとするのを不愉快に思って、いわゆるパウロは言う。なぜならそのような振舞は未だ本物の信仰に生きていない証拠であるだけでなく、教会の交わりを損なってしまう。それればかりでない。パウロが言いたいのは、人を正しい信仰に導くのは誰かと言う問題である。人を正しく信仰の門に導くのは人ではない。神こそはその導く力を持ちたもう。もしそのことを謙遜に、真実を込めて信じるなら、私たちは教師になるのを恥じるのではないか。「主はその人を立たせることがおできになる！」。私たちも道の途上にある。このパウロの言葉を信じる者になりたい。

【礼拝心得】

①礼拝は前奏から後奏までを守る。
②入堂したら私語を交さず、前奏までの時を黙想する。
③遅れてきた者は静かに入堂し、特に祈祷の時は入堂を控え、その場で共に祈りを守る。
④礼拝後は互いに挨拶を交し、交わりの時を持つ。
⑤各自週報棚を整理し、欠席者に週報を届ける。